

島原大変肥後迷惑

島原編

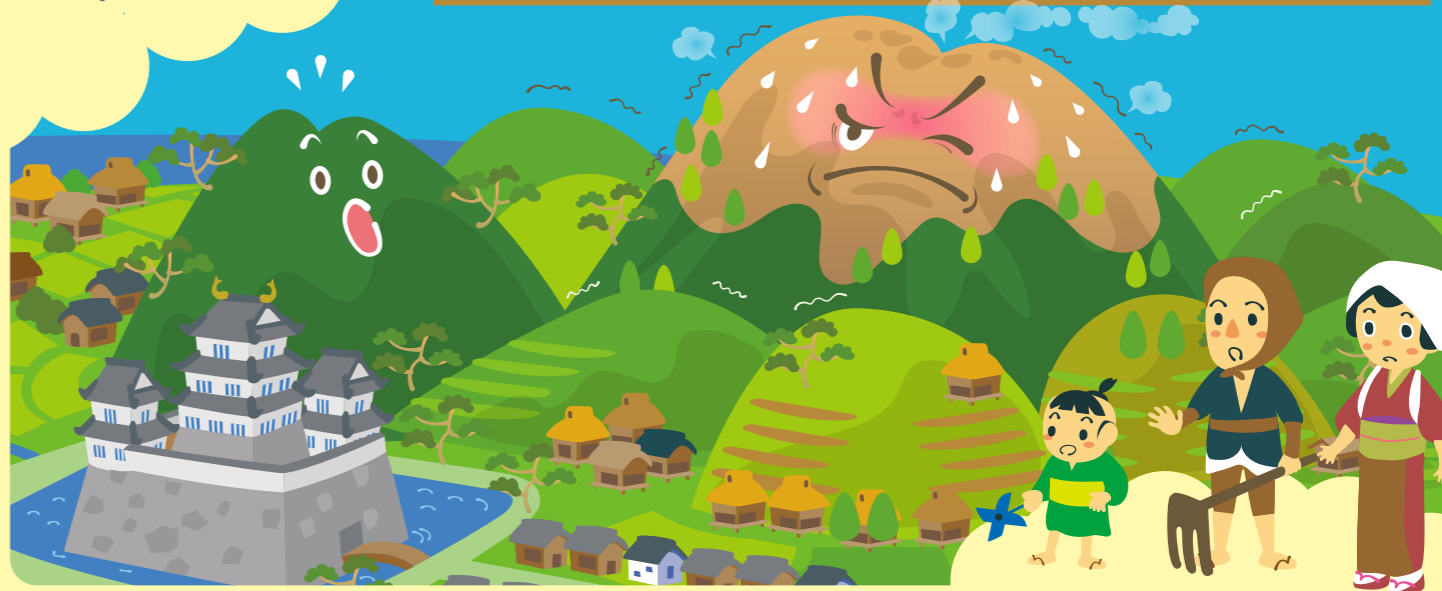
寛政3年(1791)頃から島原地方では地震がたびたび起こっていました。同4年(1792)に、雲仙岳が噴火、さらに、眉山が崩れ落ちて有明海へ流れ込むと、津波が発生し、島原とその対面に位置する熊本地方に多大な被害が発生しました。約15,000人もの被害者を出し、とりわけ津波被害は対岸の熊本・天草にも及びました。このことは、「島原大変肥後迷惑」といわれ、当時の様子を伝える記録や被害者を悼む供養塔が建立され、これらは今日にも教訓として伝わっています。



島原大変前後図(肥前島原松平文庫蔵)
明治23(1890)年



島原大変後

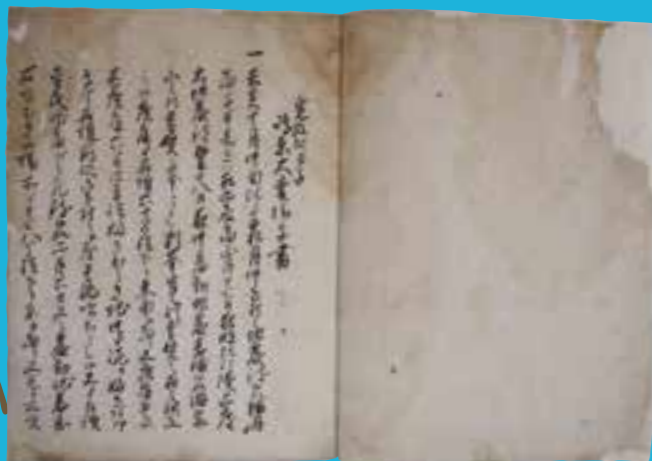


『肥前島原大変様子書』

肥前島原松平文庫蔵／江戸時代後期

しがい うめそうらえども まいにち かいちゅうよりうちあげそうらう
“死骸を埋候得共毎日海中の打上ケ候”

島原大變のおよそ6ヶ月前から続く地震の記述から始まります。避難する殿様や犠牲になった人々、現地で見聞きしたありのままの様子を記しました。

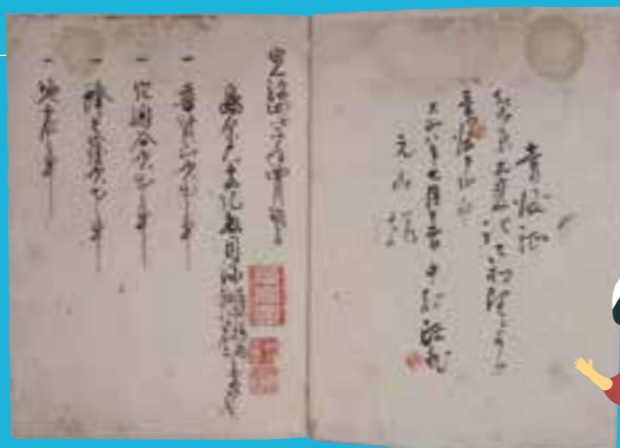


『島原大變記』

肥前島原松平文庫蔵／江戸時代後期

やまくずれこうは のこと てんち へんかはか
“山崩洪波之事 天地の變化量るへからず”

島原大變肥後迷惑の後に作成され、雲仙岳の噴火から、山体崩壊後の島原と熊本の様子がまとめられています。このほかにも、桜島の噴火や松前(北海道)での津波なども紹介されています。



『塵秘知』

国立公文書館内閣文庫蔵／江戸時代後期

あとかた じんばうしゆいぬことごと ぼうしつ
“跡方もなく人馬牛犬悉く亡失ス”

島原領の沿革から大變による被災状況を詳しく記録しています。島原は繁栄した土地柄だったものの、4月1日の眉山崩落という予想しない未曾有の大變によって混乱している様子を記しています。



長崎・熊本両県における自然災害(地震・噴火・津波)に関する総合調査
—寛政4年「島原大變肥後迷惑」の文献・慰霊碑を中心に—

- 研究代表／安高 啓明(熊本大学大学院准教授)
- 吉田 信也(島原市教育委員会・主任(学芸員))
- 島 由季(大浦天主堂キリシタン博物館学芸員)
- 長屋 佳歩(熊本大学大学院)
- 松本 博幸(天草市文化課・参事(学芸員))
- 久保 春香(熊本大学大学院)
- 川端 駆(熊本大学)

